

【22_142技術系メルマガ】エントリーに迷ったときは

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

今回も週末に振り返りをしながら考えてみると良いと思うテーマをお送りしようと思います。

「迷ったら『手を出さない』は、もちろん正しい。けど

『型』を定めてトレードしたとしても、最終的なエントリーの判断に迷う事はよくあると思います。

迷う事は、それだけ自分の経験に照らして慎重に考えているという事ですから

悪いことでは決してないですし、その結果エントリーを見送るというのは

トレーダーの判断としては的確とも言えます。

ですが、そこで一步踏み込んで考えたいのは、『自分がなぜそこで迷ったのか？』ということです。

過去のチャートの検証では、結果としてキレイに動いたことが分かっている状態で見ているので

その結果が出るまでの値動きの「過程」がどうしても見えづらいものです。

一方、実際の動いているチャートを見ながら現場判断する段階では、先の値動きがどうなるか分からない中で

『型』に沿うポイントでのエントリーを判断しなくてはなりません。

その際、値動きの状況次第では「迷い」が出てくることもあるでしょう。

このような感覚は、過去検証やシミュレーションソフトでの練習では実感しづらいもので

実際にデモトレード等をやってみて初めて気づくことも多いはずです。

そういったことを、『日々のノートに記録しておく』と、後々非常に役立ちます。

そのことを書いたのが、先日のツイートでした。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1526819132687147010>

このような記録で一番のポイントとなるのは、『迷った理由を言語化』しておくことです。

後でチャートを見返したときには、結果的に大きく動いていることが分かっているので

見過ごしてしまうような不確定要素（例えば、短期足の邪魔なMAの存在など）は

エントリー前に迷っているときには非常にその存在が大きく見えたりするものです。

それを言葉にして都度記録しておく、後で読み返したときに

例えば

「いつも同じ理由で迷っているけど、毎回結果的に目線通りにチャートは動いてた」

と気が付けば、次からはその不確定要素は無視しても問題ないと判断できるようになりますよね。

『迷う理由』というのは、その要素があるときにトレードを見送るべき理由になる場合も当然ありますが

実際の値動きには影響しない、大した問題ではない場合というのも間違いなく存在します。

そのような「（どうなるかわからないから）迷う」という具体的要素を

可能な限り仕分けておくことで、次以降に現場判断する際に「迷う」要素を極力少なくすることが
できるわけです。

トレードノートに何を書いたらいいか分からないという人は

まず自分がチャートを見ているときに

「この値動きはこれからどうなるんだろう」

「コッチにエントリーしたいけど、迷うなあ。それは何故だろう」

「迷った結果エントリー見送ったけど、この時はこれがイヤで迷ったんだよな」

こんな感じで、その場でチャートを見て感じた事、考えた事に注目して

それをなるべくありのまま文字にして記録してみることをやってみるのも、色んな発見があるはずなので

メモ帳のようにどんどん書いてみてくださいね。

そこから、思わぬ解決策や効果的なルールが生まれるかもしれませんよ。